

# ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

January 2020

No. 37

## 全国大会特集号

発行：映像メディア英語教育学会事務局  
(旧映画英語教育学会)  
住所：〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場4-3-12  
アルク高田馬場4F  
TEL：03-3365-0182  
FAX：03-3360-6364  
E-mail：office@atem.org  
郵便振替：00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

### ■会長挨拶

**ATEM President**  
**Hitoshi YOKOYAMA**  
(Kyoto Women's University)



横山 仁視 (京都女子大学)

日頃は本学会の諸活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

まず最初に、過日 10 月 19 日 (土) に開催いたしました第 25 回全国大会 (於 京都女子大学) では、あいにくの天候にも関わらず、全国から多くの会員の皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。特に開催担当支部として、近藤暁子 (兵庫教育大学、支部代表理事) 支部長率いる西日本支部の皆様および本学会の海外の姉妹学会である STEM (映像英語教育学会、大韓民国) の接遇では、井村誠 (大阪工業大学、副会長) 国際交流委員長とその委員会委員の皆様には多大なご尽力をいただきました。改めて本紙面をお借りし、心から感謝申し上げます。

本年度の全国大会での支部企画シンポジウムでは、初めて 5 つの支部が出揃い、日頃の特色ある研究・教育活動の取り組みをご発表いただきました。独立した時間帯に組み入れたことで、改めて参加者が各支部の研究・教育活動の特徴を知る良き機会となりました。次年度の全国大会では、昨年 4 月より新たに始まった SIG 活動 (5 支部 7 グループ) の初年度年間活動の成果報告の場として、今年度以上に研究発表内容に関心と賑わいを感じることを期待しております。

本学会が 2018 年 4 月 1 日から「映像メディア英語教育学会」とその名を変更したことはご承知の通りです。映画やドラマに限らず、コマーシャル番組、ニュース番組、TED Talks などのパブリックスピーチ、音楽、動画共有サービスのコンテンツ、オンラインの広告、資格英語教材などの媒体を広く活用し、学術研究の幅を広げることで、そのアカデミズムと英語教育への応用を研究しています。学会 HP (「ATEM について」) に明記しているように、私たち会員の使命は、これら生きた媒体に潜む原理を探求し、「21 世紀の国際化・情報化社会で必要とされる広範な知識経験を交換し合い、研究開発をし、それを蓄積し、社会に

貢献できる学会として (研究・教育) 活動」することを改めて認識することが、今一度、会員一人一人に求められているのではないのでしょうか。会員が勤務する教育現場で映像メディアがどう活用され、どのような教育効果があったのか、学会内の発表の場に限らず、学会のこうした趣旨に賛同し入会してもらえよう新たな情報発信の拠点となる視点に立ち、学会 HP のコンテンツを改革していくことが急務であるとの認識を感じています。このことがひいては新たな会員獲得へと繋がっていく一策であると考えます。会員の皆様にはこうした点をご考慮いただき、これまで以上に「教育成果」という視点を重視した研究発表・投稿論文を期待したいと思います。このために学会としては、SIG 活動を基本に、支部大会・全国大会の他にシンポジウムやワークショップの開催をも支部単位で積極的に開催していくことを期待すると同時に、何らかの形で支援したいと考えます。

さて、本学会の姉妹学会である STEM (映像英語教育学会、大韓民国) とは本年 2020 年には姉妹提携 20 周年を迎えます。双方の全国大会において、記念行事・特別プログラムが準備されることと思います。ATEM の全国大会においても記念行事の一環として特別企画を編成することを考えております。全国大会の日程が確定次第、会員メールを通じてご案内させていただきますので、皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。



2019 年度 STEM 大会にて  
左は Jung Han Ki STEM 会長

最後に、一昨年 10 月 27 日に行われました第 24 回全国大会 (於 京都外国語大学) にて第 6 代会長に就任して 1 年が経ちました。この間、各支部大会には私自身の研究発表をも含め参加させていただき、各支部の研究・教育活動の特色を垣間見、語り合い、人との繋がりの構築を大切にしてきました。また、各方面から叱咤激励をも頂戴してまいりました。真摯に受け止め、2 年目の学会運営に携わっていく所存ですので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## ===== 全国大会報告 =====

## 第25回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会

The 25th ATEM National Convention

映像メディアで高める発想力と発信力

Developing Creativity and Communicativity  
through Multimedia

2019年10月19日(土) 於: 京都女子大学

## ■特別シンポジウム

The Power of Ideas: Engaging Students with TED  
Talks — TED で発想力と英語を磨く

Jay Klaphake (京都外国語大学)

Takako Ramsden (京都外国語大学)

Kayoko Shiomi (立命館大学)



左から、Klaphake 先生、Shiomi 先生、Ramsden 先生

本大会の特別シンポジウムでは、TEDxKyoto で長くボランティアを務める3名のパネリストが、TED/TEDx Talks を教材に用いた授業や教育活動について発表し、参加者と意見を交換した。まず、パネリストグループのリーダーであり、TEDxKyoto の創業者である Jay Klaphake 先生 (京都外国語大学) が、TED/TEDx の世界的影響について発表した。次に、TED の翻訳者である Takako Ramsden 先生 (京都外国語大学) が、TED Talk の英文と日本語字幕から翻訳データベースを作る授業の内容を紹介した。最後に、TEDxKyoto のキュレーターである Kayoko Shiomi 先生 (立命館大学) が、TED/TEDx Talks を利用して、学生の論理的思考力、創造力、コミュニケーション力を高める授業の方法について報告・提案を行った。

(藤枝 善之)

## ■STEM 特別発表

Transmediating Visual Learning with the (R)-  
Generations: A cross learning framework design

Lee Yun Joon

(Daegu National University of Education)

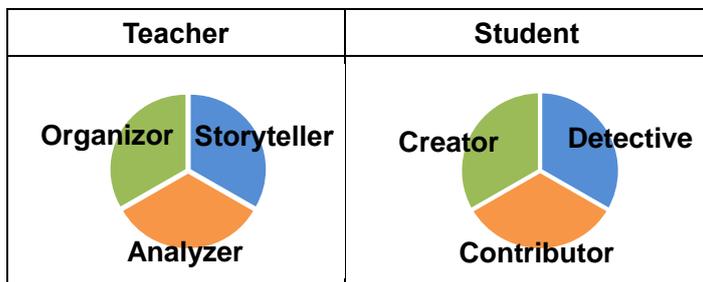
昨今の大学生は Z 世代と呼ばれる (発表タイトルの (R)-Generations は、"researcher generation" のことで、Z 世代の性格の一面を表象したもの)。インターネットが既に普及した 1995 年以降に生まれた彼らの多くはデジタルネイティブであり、スマホを使いこなし、様々なメディアを通じて情報にアクセスする術を身につけている。本研究発表の根底にあるのは、果たして我々は彼らの学習スタイルや感性に適合した (relevant な) 教育を提供できているかという問題意識である。既に、教師から学生へ知識を情報として伝達するという一方向性の授業形態から、アクティブラーニングなどの学習者主体の授業形態へと、趨勢が移りつつあるが、Transmedia アプローチは、これをさらに現代の学生の特性とメディア環境に適合した方向に推進する可能性を秘めている。例えば、授業である映画やドラマを取り上げる場合、学生は題材について多様な観点 (例えば専攻分野や関心事・着眼点など) から、YouTube、press conference、各種 SNS への投稿など、様々なメディアチャンネルを通して、情報を収集することが出来る。この活動自体が言語を用いたオーセンティックなコミュニケーションであり、学習活動となる。また、授業では、学生が主体的に収集した情報を共有し、ディスカッションを行うことによって、さらに深い学びの場を提供することが可能になる。(次頁に続く)



ご発表中の Lee 先生

Transmedia アプローチは言語習得の観点から見ても有効であると思われる。言語運用能力は、言語を媒介とするコミュニケーション活動を通して内在化され、自動化されるものである。そのためにはコンテンツを重視した、オーセンティックなコミュニケーション活動が必要であり、Transmedia アプローチはそれを実現する方法を提供する。

以下は、Transmedia アプローチにおける教師と学生の役割の関係について別途 SEO Ji-Young 先生が本大会で研究発表されたもの(タイトル: Transmedia Matters: Interest transforming knowledge) であるが、参考までに掲載する。



(井村 誠)

お知らせ

## 第26回 ATEM 全国大会

開催日: 2020年11月7日(土)

場所: 神奈川大学

姉妹学会提携  
20周年

## 第24回 STEM 国際大会

開催日: 2020年10月17日(土)

場所: 国民大学校 (Kookmin Univ.)



ATEM 全国大会後の STEM メンバーとの比叡山観光

## ■表彰式・総会

総会では、まず横山会長より、新たに発足した SIG の活動などを通して、今後も研究・教育活動をより一層活性化させていくとの方針が述べられた。次に、第8回 ATEM 優秀論文賞を、吉川裕介先生(近畿大学)が受賞されたことが発表された。



司会の巳波先生

最後に、第25期決算報告が行われ承認された。

(巳波 義典)

### ●受賞のことば

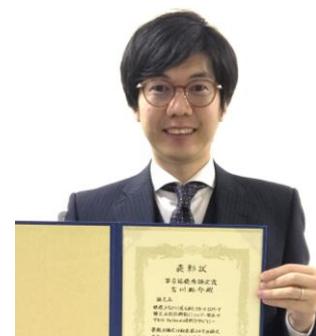
#### <優秀論文賞>

映像メディアに見られる JB-X DM-Y 構文の談話機能について—映画や TED Talks の用例を中心に—

吉川 裕介 (近畿大学)

この度は優秀論文賞という名誉な賞をいただき、大変光栄に思っております。投稿に際して、査読者の先生方からは多くの有益なコメントを賜り、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

日頃より、理論言語学の研究成果をどのように英語教育に還元するのかに興味があり、その研究内容を評価いただけましたことを嬉しく思います。研究とはわずかな光を頼りに険しい道 (trek) を進んで、真実に近づく奥の深いもの (frontier) だと思います。おそらく一生かかっても、その「道の果て」を目にすることは無いと思います。今回の賞を励ましのお言葉と理解し、今後も映像メディアを用いた英語教育について研究を重ね、ATEM の発展に寄与できますよう邁進していきたいと思っております。



## ■シンポジウムA

### 英語文学教育と映像メディアの接点を模索する



左から九州支部長・吉村先生、松尾先生、秋好先生

「映画分析研究会」SIGのメンバーによるものである。英米文学をテーマとし、その映像化作品を批評の対象とする試みを行った。まず吉村圭先生（鹿児島女子短期大学）はA. A. Milneによる小説 *Winnie-the-Pooh* (1926) と、ディズニーによって制作されたアニメーション映画 (1977) を用い、ディズニー版“Pooh”の「語り手」（ナレーター）の特異性について考察した。次に松尾祐美子先生（宮崎公立大学）は Louisa May Alcott の *Little Women* (1868) を元にした映画 3 作品を扱い、映像化作品同士を比較することで、時代背景や製作者の解釈の相違によって生じる描写の変化について考察を行った。最後に秋好礼子先生（福岡大学）は、F. Scott Fitzgerald の短編小説 “The Curious Case of Benjamin Button” (1922) とその同名映画 (2008) を用い、そこに描かれる女性たちの「語り」のあり方について比較、考察を行った。（九州支部企画）

## ■シンポジウムB

### The TV Corpus を活用した英語教育

西日本支部が企画したシンポジウムでは、The TV Corpus を活用した英語教育というテーマで、田畑圭介先生（神戸親和女子大学）、松井夏津紀先生（京都外国語大学）、井村誠先生（大阪工業大学）、近藤暁子先生（兵庫教育大学）の 4 名が発表を行った。最初に、田畑先生から、コーパスの概要説明と検索機能から得られるデータタイプの紹介とデータの解釈についての発表があった。次に、松井先生は、*Friends* (1994-2004)

のコーパスを使って、依頼表現の使用法を再検討する授業例の提案を行った。続いて、井村先生は、*Law & Order* (1990-2010) のコーパスを使用した、ESP（法学英語）の教材作成についての提案を行った。最後に、近藤先生は、発話音声にアクセス可能な口語データの検索が可能である利点を生かして、発音指導のためのコーパスを使用した教材作成及び指導方法について発表を行った。（西日本支部企画）

## ■シンポジウムC

### 映画『ボヘミアン・ラプソディ』（2018）の英語学習法

菅原裕子先生（名古屋大学）、井土康仁先生（藤田医科大学）、久米和代先生（名古屋大学）の 3 名が、杉浦恵美子先生（愛知県立大学）の司会・進行役のもと発表し、来場した会員と活発な議論がなされた。

今大会では、映像メディアの中でも映画に焦点を当て、伝説的なロックバンド「クイーン」のボーカリスト、フレディ・マーキュリーを主人公とした 2018 年公開の映画『ボヘミアン・ラプソディ』（*Bohemian Rhapsody*）を取り上げ、発表者独自の視点から大学での授業や英語教育の場でどのように活用できるかを提言した。

菅原先生は、映画学の視点から「編集」に注目し、台詞の使われ方や作品の楽しみ方を提示した。井土先生は、英文法、特に時制の視点からの考察を試み、大学の英語の授業での実践例を紹介した。久米先生は、言語使用、異文化理解の視点から様々な背景に注目し、英語教材としての活用法を示した。



左から中部支部長・司会の杉浦先生、菅原先生、井土先生、久米先生

（中部支部企画）

## ■シンポジウム E

### Using Student-generated Digital Media Products for Foreign Language Learning: How, why, and the practical benefits

テーマは、映像メディア制作がいかに関外国語運用能力の向上に繋がるかであった。Love 先生 (名古屋商科大学) は、デジタル・メディアを生かし、学生の自主性を尊重しつつ教員が適切にアドバイスを行うことで、学生が英語の映像作品の制作に生き生きと取り組む授業実践を紹介した。Fukai 先生 (東北大学) は、フランス語を学ぶ学生たちが、脚本作りから撮影、編集まで時間をかけて短編映画を作成し、YouTube にアップすることで一般視聴者からのコメントが学生の意欲を高める点について紹介した。Spring 先生 (東北大学) は、映像制作によるスピーキング力の向上に関する先行研究の多くが主観的なデータであるのに対して、Fluency, Accuracy, Complexity の 3 点から見た客観的測定 (Objective Measurements of Speaking Ability) を用いてプロジェクト前後で測定したデータを紹介し、スピーキング力が向上していることを示した。その後、活発な質疑応答が続いた。(東日本支部企画)

## ■シンポジウム F

### Designing Curricula with a CLIL Perspective: The power of multimedia

支部の精鋭トリオ、佐野愛子 (札幌国際大学)、Sarah Richmond (札幌国際大学)、三ツ木真実 (小樽商科大学) の三氏により、マルチメディアを活用した CLIL (Content-Language Integrated Learning) の授業の実践報告を中心に、一部ワークショップの要素も取り入れ、聴衆間でのペアワークも行われた。かつて白豪主義が根強かったオーストラリアでのキリスト教会と原住民の子供の教育を扱った映画 *Rabbit Proof Fence* を題材に、偏見や差別的なステレオタイプに関するディスカッションを引き出す授業の進め方が提示された。一般科目の非英語教員が英語で授業を行う一般科目または専門授業と、英語教員が行う内容中心の英語授業、この二つの勢力が共存する時代になって来つつある今、学生の理解度についてどこまで考慮しながら話し方や声の選択などを行っているかという点は、英語教員にとって大変興味深いところであり、リサーチの対象となる価値があると思われる。(北海道支部企画)

## 会場スナップ

開会式：会長挨拶



STEM 特別発表の (Jason) Lee 先生 (左)  
STEM 創設者の Jawon Lee 先生 (右)



全国からたくさんの方々に  
お集りいただきました!



特別シンポジウムの  
Klaphake 先生



懇親会での会長と  
STEM のみなさん



## ■研究発表一覧

第25回全国大会の研究発表は下記のとおりである。タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。敬称略。

////////////////////////////////////

### 【Session 1】

批判的思考の「気づき」を促す映像活用法

清澤 香 (公立諏訪東京理科大学)

The Use of Authentic Materials in Classroom Activities Focusing on Students' Emotion in the Japanese EFL Context

KITAOKA Kazuhiro (Osaka City University)

How Does Video-creation PBL Affect the Speaking Skills of L1 Japanese EFL Learners?: Through objective analysis of oral proficiency

SPRING Ryan (Tohoku University)

The Soft Power of Food in Popular Films: Focusing on Disney/Pixar's *Ratatouille* (2007)

HIKAGE Hisayuki (Reitaku University)

A Study on Relations between the World View of the Movie *The Choice* (2016) and Second Language Learning

IM Mijin (Kookmin University)

### 【Session 2】

映画批評を通して高める批判的思考力と発信力

塩見 佳代子 (立命館大学)

英語談話標識 well の研究: 言語教育への応用

高村 遼 (青山学院大学・院)

The 10-Step Dictation: From listening to writing

KOBAYASHI Toshihiko (Otaru University of Commerce)

Teaching Media Literacy through TV Commercials

YOSHIMUTA Satomi (Kwassui Women's University)

Transmedia Matters: Interest transforming knowledge

SEO Ji-Young (Kookmin University)

### 【Session 3】

教員養成の観点から教師をテーマにした映像メディアを利用した英語教育

寶壺 貴之 (岐阜聖徳学園大学)

学習者の視点から見た英語教材としての映画とドラマ

角山 照彦 (広島国際大学)

Multimedia Resources to Teach and Apply Critical Thinking Skills

YAGI Keita (International Christian University)

Boosting Productive Skills through Summary Presentation and Coping with Problems

IWASAKI Hirosada (Tsukuba University)

You Have Really Opened Our Eyes: An approach to writing about current issues using the animation *South Park*

WERE Kevin (Kookmin University)

### 【Session 4】

集団療法 (group therapy) の場面における自己開示の方法と表現

石川 愛弓 (苫小牧工業高等専門学校)

映画『ボブという名の猫』(2016)に観るプロット交差点と回転軸—極めゼリフをコーパスで深層学習—

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)

塚田 三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

映画の台詞利用と語の多義認識についての認知的考察—get rid of ~を基に—

松中 完二 (久留米工業大学)

How Watching Subtitled YouTube Videos Can Help with Listening and Reading

NAKAMURA Sachiko (Chuo Gakuin University)

SPRING Ryan (Tohoku University)

Bridging Cultures, Connecting Institutions: Developing a virtual community through tandem learning exchange projects

BARR Michael David (Kyoto University of Foreign Studies)

The Neurocognitive and Psychological Effectiveness of Digital Game-based Learning for Enhancing Phonemic Discrimination of Korean EFL Young Learners

LEE Sun-Young (Cyber Hankuk University of Foreign Studies)

CHOI Jung-Hye Fran (Walden University)

PARK Joo-Hyun (Neuronetism, Language R&D)

### 【Session 5】

異文化及び多文化理解に焦点を当てた英語教育—2020年度新刊テキストを題材に—

森永 弘司 (同志社大学)

英・米社会における薬物依存症の更生—映画で観る「コミュニケーション回路」と英語—

塚田 三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)

映画 *Beauty and the Beast* (2017) を用いた授業実践的英語教育

野中 美賀子 (高知工業高等専門学校)

Digital Navigation: Developing and evaluating digital literacy

OKAMOTO Michael (Shimane University)

Creativity Through Story: The interplay of visual and written texts

PRONKO Michael (Meiji Gakuin University)

Promoting Active Learning in a Flipped Classroom

KIM Hyun-Ju (Dankook University)

### 【Session 6】

*Spotlight* (2015)のメディア批評性—「部外者性」との関連を英語教育に絡めて—

小泉 勇人 (東京工業大学)

洋画教材は実践的コミュニケーション能力を高めることができるか—高等学校『英語表現 I』の教科書を中心に—

岩本 昌明 (富山県立上市高等学校)

トランスメディアアプローチを用いた英語授業実践報告—韓国と日本の大学生を対象に—

金田 直子 (京都女子大学)

李 枝鉉 (国民大学)

Developing Students' Media Literacy and Critical Thinking Skills within the University EFL Classroom

KAVANAGH Barry (Tohoku University)

Descriptive Exercises and Movie Novelization

YOSHIDA Masayuki (Waseda University)

Collaborative Vocabulary Build-up Practice with Word Cloud

YOON Tecnam (Chuncheon National University of Education)

## ■支部だより

### 【北海道支部】

◆支部大会(6月)では、支部会員に加えて東日本支部1名、西日本支部から2名、合計12名の研究発表があり、参加者は50名を超えました。

◆第25回全国大会にて、支部企画のシンポジウムを行いました。北海道支部会からの個人研究発表もありました。

◆支部研究会(11月)では、遠藤未央先生(藤女子高校)が授業の実践報告を行い、20名が参加しました。

(支部長:小林 敏彦)

### 【東日本支部】

◆6月から新役員として中村佐知子先生(中央学院大学)に加わっていただくことを承認しました。

◆東北大学のスプリング先生、カヴァナ先生を中心に企画・運営いただき、9月29日(日)に東北大学川内キャンパスにて東北特別研究会を実施しました。映画やビデオ制作を通じたPBL、YouTubeを活用した授業、コーパスの活用法など、英語を含む第二言語習得に関する7件の発表、計17名の参加者(非会員7名含む)がありました。来年度も実施を検討しています。

◆12月15日(日)に早稲田大学にて支部大会を実施しました。

(支部長:日影 尚之)

### 【中部支部】

◆8月24日(土)に支部大会を金城学院大学サテライトで開催しました。大会テーマは、「映像メディアを用いた効果的な英語学習」で、菅原裕子先生(名古屋大学)にご講演いただきました。研究発表では、寶壺貴之先生(岐阜聖徳学園大学)と井土康仁先生(藤田医科大学)にご発表いただきました。北海道支部と西日本支部からのご参加や一般の方々の来場もあり、充実した大会となりました。

(支部長:杉浦 恵美子)

### 【西日本支部】

◆支部大会を2020年3月15日(日)に兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパスで開催します。今年度発足されました英語学SIGによるワークショップや、小学校での英語教育をテーマにしたシンポジウム、小野隆啓先生(京都外国語大学)による特別講演の他、今年度より開始した、著作権についての勉強会の報告会も行います。支部交流企画として、田淵龍二先生(東日本支部:ミント音声教育研究所)によるご発表も確定しています。

◆支部HPに加えTwitter(@ATEM27561371)とFacebookでの情報発信も始めましたので、是非フォローをお願い致します。

(支部長:近藤 暁子)

### 【九州支部】

◆9月7日(土)に福岡大学にて支部大会を行いました。「映像メディアが生み出す多様な学び」のテーマのもと、シンポジウムと発表が8件行われました。大会では各支部から1名ずつご発表をいただき、支部交流の活性化が強く感じられる大会となりました。

◆九州支部を中心に「文化・文学/映画分析研究会」(SIG)を結成し、支部大会と全国大会でシンポジウムを行いました。支部もSIGもますます盛り上げていきます。

(支部長:吉村 圭)

## ■委員会だより

### 【ジャーナル編集】

◆ATEM ジャーナル第25号には、13編の論文の投稿がありました。ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。第25号も各論文は3名の査読委員に審査いただきました。査読委員の皆様にはご協力いただき御礼申し上げます。

◆ATEMのHPに掲載されているジャーナル投稿規定が更新されました。日本語版の修正に伴い、英語版の内容も統一されました。今後も投稿関連書類を更新していく予定です。

(委員長:足利 俊彦)

### 【国際交流】

◆第23回STEM国際大会は、ETAK(The English Teachers Association in Korea)との共催で5月17日(金)~19日(日)、韓国公州大学校(Kongju National University)で開催されました。ATEMから17名が参加、うちプレナリーでの飯田泰弘先生(岐阜大学)の発表を含め、11名の先生方が発表されました。会期中、国立公州博物館へご案内いただきました。

◆第25回ATEM全国大会にはSTEMから19名の先生方が参加され、Lee Yun Joon先生の特別発表を含めて7件の発表がありました。うちLEE Ji-Hyun先生は西日本支部の金田直子先生と日本語で共同発表されました。学会明けの帰国日には、比叡山を観光、ATEMからも国際交流委員と役員あわせて7名が同行しました。

◆第24回STEM国際大会は、2020年10月17日(土)に、ソウル市の国民大学校(Kookmin University)で開催予定。今回は姉妹学会提携20周年の記念すべき大会となります。多数のご参加をお待ちしております。

(委員長:井村 誠)

### 【大会運営】

◆2019年度の第25回大会が京都女子大学で開催され、約100名の参加者を得て、盛況の内に終了しました。各会員のご協力に感謝申し上げます。2020年度の第26回大会は、11月7日(土)に東日本支部のサポートのもとで神奈川大学で開催することになりました。(委員長:藤枝 善之)

### 【会員管理】

◆ATEM 会員管理システムをご活用ください。ATEM ウェブサイト右上の「会員」→「会員専用ページ」をクリックしていただくと、「会員管理システム」にログインすることができます。システム内のメニューから、個人情報更新、会費納入状況の確認、全国大会の研究発表応募と参加申し込み、ジャーナルへの論文投稿、STEM ジャーナル応募、STEM 大会の研究発表応募と参加の申し込みが可能です。

(委員長:嘉来 純一)

### 【ICT】

◆先日本部のウェブサイト「SIGs」のページを公開しました。2019年度に申請があり承認された7つのSIGs(Special Interest Groups)の概要が紹介されています。今後の各グループの活動の進展に合わせ、ページの情報も充実させていく予定にしております。ご興味、ご関心を持たれた会員の皆様には、各代表者のアドレス迄直接ご連絡をお願い致します。

(委員長:巳波 義典)

## ■決算報告

## 第25期 映画英語教育学会【決算報告書】

2018年4月1日～2019年3月31日

収入の部			支出の部		
前年度繰越		535,211	大会開催費	大会開催総費用	274,649
会員年会費	2016年度分@5,000 2	10,000	紀要発行費	紀要印刷費(抜刷り含む)	328,860
	2017年度分@5,000 7	35,000	ニューズレター発行費	ニューズレター印刷費	251,640
	2018年度分@5,000 244	1,220,000	ホームページ維持費	サーバーレンタル代	5,142
	2018年度分@3,000 6	18,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
	2019年度分@5,000 7	35,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	49,039
	2020年度分@5,000 1	5,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	143,295
賛助会費	2018年度分@10,000 13	130,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
大会参加費	会員@2,000(事前@1,000) 91	125,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	278,770
	非会員@3,000(事前@2,000) 10	28,000	消耗品費	会計ソフト等	49,512
大会懇親会費	イブパーティー@4,000 19	76,000	懇親会費	懇親会支出額	545,800
	懇親会@5,000 64	320,000	雑費	振込料他	6,618
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック等	7,160			
受取利息		2			
書籍送料		160			
小計		2,544,533	小計		2,193,325
未払金		130,094		みずほ銀行	349,058
				郵便振替口座	102,382
				小口現金	29,862
				仮払金	
				翌年度繰越金	481,302
合計		2,674,627	合計		2,674,627

※個人会員 355名・賛助会員 11社

昨年度参考 ※個人会員 369名・賛助会員 13社

2019年5月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 秋月 ATEM  
Clapper Board

- 1) 第25回全国大会へご出展いただいた賛助会員は、下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。(50音順)

記

朝日出版社 英宝社 金星堂 成美堂

- 2) ATEMの学術活動は皆様の会費で運営しております。未納の方々には、至急お支払いいただきますようお願い申し上げます。※会費納入方法(振込)については、本部HPをご参照ください。

<http://atem.org/index.php/membership/membership-fee>

- 3) 支部にてワークショップを開催する場合は、運営補助金の申請が可能です(審査あり)。詳細は事務局までお問い合わせください。

## ～編集後記～

- ◇年末年始のお忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。  
◇次号は2020年5月頃に発行予定です。  
◇今回も、九州支部長の吉村先生に全国大会の写真を多数ご提供いただきました。

## &lt;賛助会員一覧&gt; 2019/11/30 現在 (50音順)

- ★株式会社朝日出版社
- ★株式会社アルビス
- ★株式会社英宝堂
- ★株式会社桐原書店
- ★株式会社金星堂
- ★国際トラベル京都
- ★一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
- ★コスモピア株式会社
- ★株式会社松柏社
- ★株式会社成美堂
- ★センゲージラーニング株式会社

[広報委員会] 2019.12.10 現在

委員長：秋好礼子(九州)  
委員：田口雅子(北海道) 杉浦綾子(東日本)  
井土康仁(中部) 衛藤圭一(西日本)  
石田もとな(九州)

©ATEM All rights reserved.

